

# 第二回 國会 運輸及び交通委員会議録第十二号

(四三八)

昭和二十三年六月九日(水曜日)  
午前十時三十四分開議

出席委員

委員長 川野 芳浦君  
副前田 郁君

大澤源平治君  
尾崎 末吉君  
増田甲子七君  
井谷 正吉君  
佐々木更三君  
飯田 義茂君  
館 俊三君  
原 駿君  
出席政府委員 岩村 駿君

運輸政務次官 木下 葉君  
運輸事務官 加賀山之雄君  
委員外の出席者 事務調査員 堀 正威君

出席政府委員 岩村 駿君

昭和二十三年六月九日(水曜日)  
午前十時三十四分開議

げましたいろ／＼な資料をまだいたたいておりませんので、なるだけ早い機会に手もとにお届け願いたいと思います。

過日は予算のうちの収入の面をお伺いしたのでござりますが、本日は支出

の面についてお伺いしたいと思いま

す。これもまだ詳細な予算書が提出になつておりますので、その内容を検討することができませんが、現在の経

営機構をもつて簡素能率的にする途

に基きまして、かとて簡素能率化に

反するようなことが行われてはいけない。機構をもつて以前に還元するよう

にあります。今日は戦後の特殊事情に基くものは

ところのいろいろな支出来があると思いま

す。それは運賃関係とか、あるいは

外國關係といふものがありますが、

こうした戦後の特殊事情に基くものは

除きました。現在の機構を中心、地方

を適じまして、戦前に還元することは

できなかつて、こういうことをお尋ねし

たいのであります。また最近機構が改

正されるところを聞いております。

たとえば運賃省設置法案とか、そ

の他各省の設置法案が出ております

が、運輸省設置法案も提出されるとい

うことを聞いております。その案によ

りますと、またかえつて機構が拡張に

なつて、簡素能率的な運営に逆行する

というようなことになりはしないかと

いうことを心配するのであります。運

輸省設置法案を現在準備しつつあると

しますれば、その内容をこの際一應承

認めた名前にする。これは結局

いたし、またこれは名前だけの問題

にもなるのであります。運輸局とま

つておりますのを運輸局と、仕事の実

際に合わせた名前にする。これは結局

す。損害勘定の予算につきまして、まだ細目を差上げておりませんが、これは大蔵省との交渉もほぼ妥結いたしました。提出する運びになつておりますので、あらためて差上げることにいた

したいと思います。今度の富國設置法

に基づいて設置されおられますこと

の地方道路運送監理事務所に監理権を

移し、地方鉄道、軌道、あるいは小

さの運送等の監理もなさしめるという方向

に進んでおるわけであります。従いま

して残つた鉄道局を中央組織といた

しまして、地方の鉄道局は、本来のほ

んど運営のみにタッチするというかつ

こうに相なるかと考えるのでございま

して、これらの予算につきましては、

これも申し上げたと存じますが、今回

そのまま法律化したと、うことに相な

ますところの鉄光局等は、これを行政

面、いわゆる運輸省の中に入れて鉄道

局から切り離すといふかつこうをと

つております。それから逆に運輸監理

局に属しております國營自動車に関する部面を鉄道監理局の中に取入れる。こ

れは問題は運営でござりますので、總

局に取入れると、う措置をとることに

いたしておるわけでござります。それ

以外の部局といたしましては、大体に

おきまして戦前の経理局、たゞいま總

局と言つております。これを経理局

といたしまして、またこれは名前だけの問題

にもなるのであります。運輸局とま

つておりますのを運輸局と、仕事の実

際に合わせた名前にする。これは結局

いたし、またこれは名前だけの問題

にもなるのであります。運輸局とま

つておりますのを運輸局と、仕事の実

際に合わせた名前にする。これは結局

いたし、またこれは名前だけの問題

りますところの陸運監督面を、道路運

局が本省から現場にわたりまして非常

に廣汎でござりますし、またその仕事

の内容が非常に複雑でございますの

で、一朝一夕にこの結論は出ないので

ございますが、ますこの七月を目指に

して一部の調査を終え、今年度一ぱい

にここの調査をあるところまで完成い

たしまして、その完成いたしました段

階に應じて、たとえ全部が完成いたし

ませんでも、ぜひこれをやるべきだと

いうことの結論を得ましたならば、そ

の途中におきまして、実施していく

つもりをいたしておるわけであります

。一口に申しまして、私どもの考え方

いたしましては、現業の定員をさらに

よく査定することが一つの大きな問

題だと思いますし、もう一つの問題

は、いわゆる監理部門と申しますが、

いたしましては、現業の定員をさらに

よく査定することが一つの大きな問

題だと思いますし、もう一つの問題

は、いわゆる監理部門と申しますが、

いたしましては、現業の定員をさらに

よく査定することが一つの大きな問

題だと思いますし、もう一つの問題

は、いわゆる監理部門と申しますが、

いたしましては、現業の定員をさらに

よく査定することが一つの大きな問

題だと思いますし、もう一つの問題

は、いわゆる監理部門と申しますが、

いたしましては、現業の定員をさらに

よく査定することが一つの大きな問

題だと思いますし、もう一つの問題

が、この戦後の特殊事情によって増加いたしております部分がなかなかこれには軽視できないものであります。たとえば本省等の仕事におきまして——これは本省のみに限らず、結局その仕事が現場まで参るわけでございますが、通駆軍関係から求められる調査、統計をつくります仕事、これは相当の人員を要するわけであります。これはもちろん関係方面の要求によつてつくるものでございますが、かたゞ、鉄道の経営にせひとも必要な資料もあるというわけ、これに相当の人員を使つております。またこういう考案の充備によりまして、経営の合理化もその方針が立つと考えております。

以上、御満足は得られないかもしれません、実情を率直に申し上げた次第であります。

○加賀山政府委員 通駆軍関係の調査に要する要員予算でございますが、これは特に抜き出しておらないのであります。これは單に調査に限らず、つまり先ほど申しましたように、その調査のうちでもこちらに役立つものもたくさんあるわけでござりますので、それが眞にどちらのためになるかといふことは、わけて考えるわけにいがたい問題がたくさんございます。まだ現場におきましても工場部——工場でございますが、こういうところでやつております仕事は、通駆軍関係の客車の修理あるいは改造をいたしますとともに、やはり一般輸送の修繕、改修もやつておりますので、これは定期的にあります。それは予算的にきつとわけるといふことは困難なのです。もちろんどのくらいのペーセンテージがそれらのについて心配しますのは、各省相手人負担を、こうした方面的予算の運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。それから私が通駆省設置法案といふたしまでの調査資料という方面に、これはどこが負担しておるか。

○重井委員 通駆軍関係の現況面である運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。またどういう考案の充備によりまして、経営の合理化もその方針が立つと考えております。またこの点につきましても、この点につきましては、私は特に抜き出しておらないのであります。これは單に調査に限らず、つまり先ほど申しましたように、その調査のうちでもこちらに役立つものもたくさんあるわけでござりますので、それが眞にどちらのためになるかといふことは、わけて考えるわけにいがたい問題がたくさんございます。まだ現場におきましても工場部——工場でございますが、こういうところでやつております仕事は、通駆軍関係の客車の修理あるいは改造をいたしますとともに、やはり一般輸送の修繕、改修もやつておりますので、これは定期的にあります。それは予算的にきつとわけるといふことは困難なのです。もちろんどのくらいのペーセンテージがそれらのについて心配しますのは、各省相手人負担を、こうした方面的予算の運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。それから私が通駆省設置法案といふたしまでの調査資料という方面に、これはどこが負担しておるか。

○重井委員 通駆軍関係の現況面である運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。またどういう考案の充備によりまして、経営の合理化もその方針が立つと考えております。またこの点につきましては、この点につきましては、私は特に抜き出しておらないのであります。これは單に調査に限らず、つまり先ほど申しましたように、その調査のうちでもこちらに役立つものもたくさんあるわけでござりますので、それが眞にどちらのためになるかといふことは、わけて考えるわけにいがたい問題がたくさんございます。まだ現場におきましても工場部——工場でございますが、こういうところでやつております仕事は、通駆軍関係の客車の修理あるいは改造をいたしましたとともに、やはり一般輸送の修繕、改修もやつておりますので、これは定期的にあります。それは予算的にきつとわけるといふことは困難なのです。もちろんどのくらいのペーセンテージがそれらのについて心配しますのは、各省相手人負担を、こうした方面的予算の運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。それから私が通駆省設置法案といふたしまでの調査資料という方面に、これはどこが負担しておるか。

○加賀山政府委員 御指摘になりました点は、われくもまつたく同様に考へておる次第でござります。本年の春に二一八箇月分に開通して運賃を上げないから運賃を値上げしなければならない、こういふような印象を一般国民に與えるわけであります。今日運賃値上反対の先頭を切っておりますのは、國鐵内部からでございまして、國鐵労組から一番運賃値上反対が出ておるのあります。こういふことはいろいろ、技術上の關係もありましたようが、はつきりと國民が、簡単にそちした感情をもつておる次第でござります。従いまして通駆軍関係の輸送に対しまする費用は、これは一括いたしまして、コスト計算に基きまして、結局現場の列車運轉に要しまする費用、あるいは輸送に直接必要となりますところの費用等を計算いたしました。このコストに基づいて、終駆連絡費がこの道路運送委員会において聞いておる。この人は新しく補充されたのである。この人は新しく補充されたのであります。

それから先づる道路運送委員会ができましたが、それには三千人の人が新しく勤務されておる。その三千人の人がこの道路運送委員会において聞いておる。この人は新しく補充されたのであります。

○加賀山政府委員 通駆軍関係の調査に要する要員予算でございますが、これは特に抜き出しておらないのであります。これは單に調査に限らず、つまり先ほど申しましたように、その調査のうちでもこちらに役立つものもたくさんあるわけでござりますので、それが眞にどちらのためになるかといふことは、わけて考えるわけにいがたい問題がたくさんございます。まだ現場におきましても工場部——工場でございますが、こういうところでやつております仕事は、通駆軍関係の客車の修理あるいは改造をいたしましたとともに、やはり一般輸送の修繕、改修もやつておりますので、これは定期的にあります。それは予算的にきつとわけるといふことは困難なのです。もちろんどのくらいのペーセンテージがそれらのについて心配しますのは、各省相手人負担を、こうした方面的予算の運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。それから私が通駆省設置法案といふたしまでの調査資料という方面に、これはどこが負担しておるか。

○重井委員 通駆軍関係の現況面である運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。またどういう考案の充備によりまして、経営の合理化もその方針が立つと考えております。またこの点につきましては、この点につきましては、私は特に抜き出しておらないのであります。これは單に調査に限らず、つまり先ほど申しましたように、その調査のうちでもこちらに役立つものもたくさんあるわけでござりますので、それが眞にどちらのためになるかといふことは、わけて考えるわけにいがたい問題がたくさんございます。まだ現場におきましても工場部——工場でございますが、こういうところでやつております仕事は、通駆軍関係の客車の修理あるいは改造をいたしましたとともに、やはり一般輸送の修繕、改修もやつておりますので、これは定期的にあります。それは予算的にきつとわけるといふことは困難なのです。もちろんどのくらいのペーセンテージがそれらのについて心配しますのは、各省相手人負担を、こうした方面的予算の運轉、運送といふ方面は、一般から補給されておることを承つております。それから私が通駆省設置法案といふたしまでの調査資料という方面に、これはどこが負担しておるか。

○加賀山政府委員 御指摘になりました点は、われくもまつたく同様に考へておる次第でござります。本年の春に二一八箇月分に開通して運賃を上げないから運賃を値上げしなければならない、こういふような印象を一般国民に與えるわけであります。今日運賃値上反対の先頭を切っておりますのは、國鐵内部からでございまして、國鐵労組から一番運賃値上反対が出ておるのあります。こういふことはいろいろ、技術上の關係もありましたようが、はつきりと國民が、簡単にそちした感情をもつておる次第でござります。従いまして通駆軍関係の輸送に対しまする費用は、これは一括いたしまして、コスト計算に基きまして、結局現場の列車運轉に要しまする費用、あるいは輸送に直接必要となりますところの費用等を計算いたしました。このコストに基づいて、終駆連絡費がこの道路運送委員会において聞いておる。この人は新しく補充されたのであります。

する要員の関係につきまして、非常に難問があるというふうに考えておりま  
すが、人員の面におきましても極力  
ゼーブをいたしまして賄つていただき  
い。その他の修繕費でござりますと  
か、あるいは工事、あるいは物費が  
ござりますところにおきましては、一  
般の物價の傾上りが大体七〇%ないし  
八〇%と予定されておるわけでござ  
ますが、物費を全体にわたりまして、  
むしろ今回の予算面におきましては、  
一般的の傾上り率を見ていない、あるいは  
車両によりましては、單に五〇%程  
度の値上がりしか見込んでおらないとい  
うような方策をとりまして、その予算  
面から節約を強要するという行き方を  
立てておる次第であります。従いまし  
て今回の値上げをフルに今回の予算に  
盛りこんでいいないので、これが節約で  
きませんと、それだけ修繕費が減る、  
あるいは工事規格が落ちるのであります  
して、どうしてもわれわれが目標とし  
てもつております修繕なり工事は、完  
成しなければならない關係上、何とし  
てもそれを完成する所れば、どうし  
てもそれにおいて節約をしなければな  
らないというふうに、予算面を組んでお  
るということをございます。そういう  
ふうにして節約をいたしていく所存  
でござります。

うように承つておるのでござります。それはなぜかと申しますと、戦時中の無謀な抜い方によりまして、すべてのものが磨滅してしまつておる。たとえて申しますと、レールのごときも、ほとんど磨滅して使用に耐えないものが各所にできつてある。それを今後補充がきかない關係上、これからまたあと一年も二年も使用しなければならぬ。そういう關係で、戰前においては一人で軌條の整備なんかができるておつたものが、現在では三人おらなければその修理、整備ができない。こういうような關係で、現在の人員は決して過剰でないというようくに承つておるのでござります。これは軌條だけではなくして、國鉄全体にわたつてこういうことが言えるのではないかと思うのであります。が、その關係につきまして実情を伺いたいと思ひます。

ります。従いましてこれには、さらに先ほど申しました科学的調査方法によつて、こまかくタイム・スタディー等も行つてやつとしませんと、なかなかわれくが期待するような数字は困難かと存じます。われくがこの人員について概括的にといふか、概観的に、これが多いか少いかをはかる方法といたしまして、たゞいま採用いたしておりますのは、ワイヤント方式によつてこの定員を算定するという行き方でございます。お手もとに壁上げました運賃改正の資料の第一ページに基準数量というものが上つているのですが、さうですが、これらの数量によつて、戦前の基準と今日の数量とをそれく比較する、いわゆる経営比較をするという立場に立つわけであります。が、われわれのやります仕事の量が、結局定員にある関連をもつていかなければならぬという問題になるわけであります。これらのが基準数量に対する現在の数量の比率が出てまいります。それが、列車キロごとく一部のものを除きまして、すべて現在の数量は戦前昭和九年、十年、十一年、この三年度の基準よりも多くなつております。その中で特に多くなつておりますのは、旅客の人キロ、輸送人頭並びにその人キロでございますが、これは三倍以上に達しております。これは顯著な増加でござりますが、その他の方面にいたしましても、全部一頭五分ないし二割あるはこれが倍、十割に達しているものもあるわけでござります。これを今度は予算科目別と申しますか、あるいは保線とか修繕、車輛の修繕費でございますが、それから電気とか、そういう費用にわけて、その費用に可変費

費、つまり仕事量が増すことによつて当然その率だけ殖えなければならぬ。いわゆる変る費用。それから不変費、不変費と申しましても絶対に変らないことはないのでござりますが、数量に應じて殖えないと、いう費用等にわけて、そうしてそれによつて数量の多い、でもつて殖えなければならぬ數字、それから殖えないで済んだ數字、かようなどを合わせて計算いたしますと、戦前との營業比較において大体五十四万人程度が必要であるという數字を得ておるわけであります。これは今申し上げた、よちな方式によつて計算したのであります。そのほかに、いわゆる進駐軍關係の仕事をしておる者であるとか、あるいは保守度が非常に低下しておるために、保守の向上的のために必要な者とか、あるいは労働基準法等の関係で特に殖えなければならぬ者であるとか、そういうものを加えますと、約八万という数字を得るのであります。これを合計いたしますと、ちょうど本年度の予算定員になつておりますところの六十二万人程度の人員になるのであります。われくはそういう見当からして、現在もつております六十二万七千人でござりますが、この人員は必ずしも多くないという算定をしておる次第であります。だだこれの配當がアンバランスになつております。地方的あるいは種種の面で一部において過剰を生じ、一部においては欠員を生じておる。事實をさういう状態が現われておるのでございまして、これがわれくの經營上一番困難を感じておる点であります。従つて昨年度においては、一部の過剰をできるだけバランスしていくという見地から、新規採用

充ができない、という状態が出てまいりまして、一部業務の支障となり、いわゆる角をなめて牛を殺すという点が現われれるおそれが生じたのでありますけれども、この方針は現在においても採用しております、過員を多くも箇所には補充しない、欠員のある面特に補充を要する面は、それべく地域、あるいは職種によつてペーセンテージをつくりまして、今後の欠員を補充していく、非常にこまかいやり方を加えてまいりという方針を立ておるのであります、その結果急速にはバランスはとれないものであります、この方針を続けるければ、必ず二年、二年後には人員のバランスがどれいくということを、われくへは期待をいたしておる次第であります。

○重井委員 私は現在の國鉄は、現状から考えてその人員は決して多くないと申し上げたのであります。現場における人員数は多くない、というふうに私は考えておるのであります、非現業の行政面におきましては、あるいは過剰ではないかと考えておるのであります。そこで戦前における現業と非現業、現在の現業と非現業、この比率がもしおわかりでしたら承りたいのであります。

○加賀山政府委員 非現業に關しましては、私どもいたしましては、考え方によるところでござりますが、極端に申しますれば実際汽車は現業さえ少しつかりしておれば動くのでありますから、この計画面、あるいはこれを総合的に監査し監督していく面は、ある程度減ら

(498)]

し得るということは事実であると思ふのであります。しかしこういう計画画面に慎重を期し監督を十分にいたして、申しますためにには、相当の人員をもつべきである。非常に複雑多岐なまた廣汎な仕事をやつております關係上、鉄道局におきましても、本省におきましても、相当の人員が必要である。特に先ほど申しましたように、しな／＼な調査統計類を整備していくためには、この面から考えましても相当の人員が要るのだと思つておりますが、これは考え方でございまして、それを減らさば車両が停まるかといふれば、そちらが要るのだと思つておられます。この減らす方法も、いわゆる天引きによるほど申しましたように、極端に言へば、少し人數でも私どもはやつていけないとは申し得ないと考えるのであります。この減らす方法も、いわゆる天引き主として、これに合ふようには、それくの部局に最も合理的な人員を立てます。申上げました科学的調査を考える、いわゆる事務の流れの調査を完成いたしましたしまして、これに合ふようには、それくの部局に最も合理的な人員を立てます。申上げました科学的調査を考える、いわゆる事務の流れの調査を完成いたしましたしまして、一律の天引き主義は適当ではないといつぱりに考えておる次第であります。

はこれまでの炭價は千四百二十四円で  
あつた。そしてそのほかの特殊産業に  
は六百円で運びでついた。今度の改訂  
によれば炭價は三千二百円になる。そ  
の場合に特殊産業であるところの鋼鉄  
とか銅鉄、肥料その他の十七品目に対  
しては一千円くらいで配給し、そ  
して便益補給金が出ることになつて  
おりますが、國鉄は基礎産業であり、  
重要産業でござります。これに対しま  
しては一千円くらいで配給し、そ  
して便益補給金が出ることになつて  
おりますが、國鉄は基礎産業であり、  
重要産業でござります。これは  
して小賣價格であるところの三千二百  
円といたしますと、ナビに「一トンで二  
千」百円の開きがあるのであります。  
これはちよつと常識的な質問かもしれ  
ませんけれども、一年の使用量が六百  
十八万トンとしますと、その差額は百  
四十九億六千万円でございます。これ  
だけ特殊産業よりは高く買うことにな  
るのであります。そこで私どもは、独  
立採算制ということを運輸省の立場か  
らあくまで堅守して考えるときには、  
各捕産業並に扱うことを請願するのが  
当然ではないか、こう申しますと、結  
局ほかの予算との関係があるからと申  
されるかもしれませんけれども、運輸省  
の独立採算制といふ立場から考えれ  
ば、重要産業であるところの運輸産業  
に対しても、あくまで特殊産業としての  
石炭の配給をすべきであると考えるの  
であります。これに対しまして運輸當  
局としては、他の省に対しまして、積  
極的に適宜そち、いふような構想をもつ  
て交渉せられたことがあるかどうか。  
現在これに対してどういう御意見をも  
つておるか。運輸大臣にお聽きしたい  
のであります。

重井さんの言われますように、そういうことをわれても希望しておりますが、今最も大震省の方に交渉いたしましたけれども、石炭の價格引削供給されると、一方におきまして、附圖あるいは山元の方へ、割引された額だけ價格差額金で國の財政から補填をしてやらなければならぬとすれば、一方におきまして、附圖同じことになるのではないかでござります。もつとも重井さんと結局風船玉と同じようになります。そこで、そういうことにいたさなかたわけでございます。

て、この價格差額給金の問題も考慮を入れて、石炭を重質産業並に配給するのが当然ではないかと考へるものもありますが、もう一度御所見を伺いたいと思います。

○岡田國務大臣 謹旨からいたします。私も東邦さんの言われます運賃値上げを低い目にするために、一般的な国民からそれだけの負担を願うことは、私もまつたく同感でござりますが、今回は先ほど申し上げましたごく決定をいたしましたので、今後國民からの変更ということになりますと、時期的に考えましても困難なことでありますから、今回につきましてはただいまの策で御承認を願いたい。御了承願ひたいと思ひます。しかし別の観点から、もし國会におかれまして何らかの改正等を加えられることになりましてならば、私らとしてはやむを得ないことをおこなふことであると思ひます。

○重井委員 運賃値上げの問題は、決してこれだけを独立にやることはできません。それでありますとして、運賃の値上げが決定いたしましても、租税のある一部でもつて崩れてまいります。あるいは資金の問題で崩れてしまりますと、またやはり崩れなくなることになりますのでありますから、一般的の予算とにありますように合併して運賃も審議すべしというものが、本質的な趣意だと考えておりますので、これ以上運輸大臣に御質問申し上げませんが、もしそういうことになりましたならば、そのときは積極的に現在おもちになつておる運輸大臣の立場、独立採算制、國鉄再建の立場から、強くこの石炭関係につきましては御主張願いたいと思うのでござります。

なおその次には工事請負制度について伺いたいのであります。この資料を見ますと、一時は制限入札であつたのであるが、現在は競争入札になつてゐるということであります。鉄道工事請負会社その他の長い間鉄道と關係のある請負者があるので、いろいろな恩恵をうようなら方針、現実にどういうような実情によつて入札並びに金銭の取引ができるものができるでありますか、これをお聞きしたいのであります。特に私がこれまでお聞きしますことは、私は誠懇無量のものがあるのであります。それは私が今日まで特に人格高潔であると信じまして、かつてこの議場におきまして高級官僚の方々にも、これほどりづばんな人格、識見、手腕をもつた人があるのかと御審議を申し上げましたところの前の伊能長官が、何が不正事件をやつて、それが暴露されておるという美であります。伊能長官にしてこうした間違いをされるということを考えますときに、地方の管理部關係のいろい私ども耳にはいりますが、この考え方に対する御審議をいたしましたときの伊能長官が、何か不正事件があつて、それが暴露されておるという美であります。伊能長官にしてこうした間違いをされるということを考えますときに、地方の管理部關係のいろいろの場合に、この請負制度といろいそに關係のあることを想像するのであります。むづひとこの請負制度に対しましては、競争なる取扱をしていただきたいと思うので、現在の状況につきまして責任ある御答弁をお願いしたいと思います。

トトロの世界で、この風景が見えてほしくて、黒板の上の字を読むのが好き



に對してどういうことであるか調査し  
てくれという電報が本部に來ております  
。この國鉄の運賃値上げは、世間一  
般に非常な刺戟を與え、國民經濟など  
ういう影響を及ぼすかと、いうわけで  
大衆は大体においてこの値上げに怒り  
反対を表明しておるのであります。が、そ  
ういう際に、運輸交通委員会自身が審  
議すべき筋合のものではないと言ひ  
ついては、非常に不親切極まると思つ  
ております。しかし私はこれを信じて  
おらなかつた。しかも私は北海道の  
新聞をとつておりますので、今日それ  
を見ましたところが、これもまたおか  
しなことを書いておる。六月一日から  
國營バス、トラックの運賃を鏡上げを  
したのであるが、本省の指令によつて  
これをまた延期したという記事が出て  
いるのです。本省はそういう態度を地  
方に對して示しておるが、これをお聽  
きしたい。

○ 四田謙蔵大臣 國營自動車の運賃値  
上げの件につきましては、若干の行き  
違いがございまして、はなはだ不手ぎ  
わな字とは云つておりましく、まことに  
に遺憾でございます。この國營バスの  
運賃値上げは、前に暫定値上げが行わ  
れました私鉄と民營バスなどに關係い  
たしまして、上げようとしたいたわけ  
でござります。もちろん鏡頭の言われ  
ますように、われくは運輸交通委員  
会に御説明申し上げて、御了承を得る  
ということはやらなければならぬこと  
だと考へておりますから、今後はその  
ようにないたしたいと存じますが、そ  
れに私鉄並びに私電、民營バス等の暫

定値上げを実施いたしました場合に、ちょうど國会が休会中でございましたので、その御了承の説明ができなかつたわけでございますから、その点につきましては御了承をお願いしたいと存じます。先づ私の私鉄、民營バスなどの値上げに關連しまして、國營自動車の値上げも内定いたしておりました。國營自動車の方は運賃の計算、操作、切符等の都合によりまして、私鉄、民營バスなどよりも指間が遅れてまいりました。したがつて六月一日から実施するということにつきまして、関係方面との交渉が大体できつておつたので、指令を下しておりましたところ。それに若干の間違いが生じてまいりました。またさらには御指摘のことくに取消したわけでござります。この点につきましては先般当委員会の打合会におきまして、小幡陸運監理局長から御説明を申し上げて、御了解を得た次第でござります。運輸省としては非常に不手ぎわなやり方をいたしまして、まことに遺憾でござります。

貨値上げで激化しておる民心に與えた  
る影響は非常に大きい。それから小さ  
いことでありますけれども、その間の  
収入をどういうふうに処理なさるか。  
もう一つは概念的に考えて、國鐵の運  
賃値上げというものは、國鐵經營のす  
べての面の運賃値上げを規定するもの  
であると民衆は考えておる。これでは  
すした理由もちよと述べたし。  
○岡田國務大臣　國營バスの値上げ  
は、前に行なれました私鉄、民營バスの  
値上げに步調をそろえますために行お  
うとしたのでございませんが、民營のバ  
ス、あるいは私鉄だけが上げまして、  
國營バスが上げないということになり、  
ますと、その旅客が國營バスの方へ集  
まつて、轉移せられますよう傾向も  
出てまいります。あるいは平行線の場  
合におきましてはそういう關係から民  
営バスを圧迫するようなことが起りま  
すので、これはやはり専利措置として  
中間値上げといたしまして、なるべく  
歩調を合わせて引上げを行うのがいい  
といふ考え方から実施いたしましたわ  
けであります。

なおある一部については一日から実  
施いたしたところがありますので、そ  
の点は省略がありおおじで、値上げをし  
たしました分の金額は返還をいたすこ  
とにいたしております。なおまだこの  
國營バスの暫定値上げは國民の意識を  
買うというお話でございましたが、し  
かしこれはすでに先月の十八日から私  
鉄並びに民営バスが実施しております  
ので、それから考えましたならば、國  
民は了解してくださるものと考えてお  
るわけであります。

それからこの運賃の暫定値上げでは  
いりました收入といふものは、やはり

鐵道特別会計の中において処理せらるる問題でございまして、もちろん予算面には織りこまれていないのでござりますが、予算はあくまでも予算でございまして、決算面において現われてしまつて、皆様方に御報告申し上りまして、井谷委員、今館君の御質問と大臣御答弁とを、私横から聞いてみてびたり出来ない点がある。これはこの前いぶん御欠席があつて、皆様方が御知にならないので、御質問の点があつたと思うから、この次の機会に岡田さからもう一通同じ内容をお詫びになつ方がいいと思います。

○川野委員長 今谷君なり、もう回との問題については政府当局の御明を聽いたら、というお話をありますので、その通りにいたしたいと思つますが、御異議ございませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川野委員長 そういうことに決定いたします。

○鶴賀委員 こういうことが非常に不平に思ひます。これは運輸省における事務のやり方が非常にルーズであるとか、頗る腐れておるとか、官機が非常に腐敗であるとか、あるはセクシヨナリズムであるとかいつづけられてございまして、これが運輸省における事務のやり方が非常にルーズであるとか、頗る腐れておるとか、官機が非常に腐敗であるとか、あるも直したいと思つております。

それと同時に言つておきたいことは、國鉄の空氣が頗る腐れておるといふことを取上げた場合に、下僚のみならず、井谷君から出ましたので申しますが、任を負はしておるような形で、いわゆる

る労組のスト問題についてもとかく  
ういうようなことで非難されておる  
それから別の問題で十が、下級從  
員の不正行為が続々新聞に暴露され  
たびに、当局はいろ／＼訓示めいた  
のを発表しておるのですけれども、半  
米地さんの米の問題、あるいは今度  
伊能長官の事件などが起きた時に  
政府は六十万從業員に対してもう一  
形式の発表の仕方をされておるが、  
がこうであれば、下もまたやむを得  
いといふような印象を一般下僚を得  
てはいけないのでありますて、そのこ  
についてどういう処置をとられたか、  
一言聽いておきたい。

○岡田國務大臣（續）の廢止につき  
しては、運輸省といたしましては、  
後は厳格に法の命ずるところに従いま  
して、廃止はばかりないと存じてお  
ます。伊能君の逮捕が起りました際  
は、「これが取扱いを機会に、職員全  
てに対しまして十分に注意すべきこと」  
なればこれは判決を待たなければ、政  
府がわからないのであるから、「一  
動無をしないこと」と並びになお「廢  
止を堅請に保つように注意をすべきこと」  
と等について、連しをいたしております  
す。

○鶴委員 そういう達しがあります  
ら、あとでこちらへ出して見せてい  
だきたい。それによつてまた承ります  
いませんか。

○川野委員長 この際お詫びいたしま  
す。午前の会議はこの程度にいたしま  
して、一應休憩し、午後一時より再開  
いたしたいと思ひますが、御異議ござ  
いませんか。

吉田さま、まだたまご細切りの、絞りましまー、見えな上うの舌もる葉。そ

○川崎委員長 では午後一時より再開することにいたしまして、暫時休憩いたします。

午前十一時五十三分休憩

○高瀬委員長代理 休憩前に引続き会議を開きます。

都合によりまして、本日はこれにて散会いたします。

午後一時四十八分散会

(第一類 第十四号)

昭和二十三年七月二十四日印刷

昭和二十三年七月二十六日発行

衆院院事務局 印刷者 印 刷 局